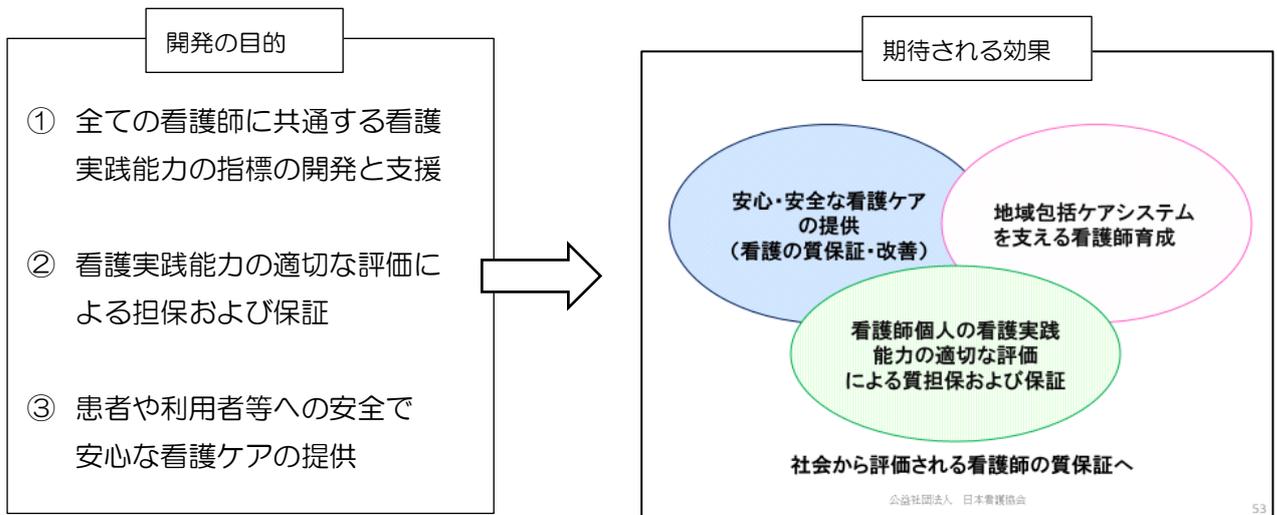
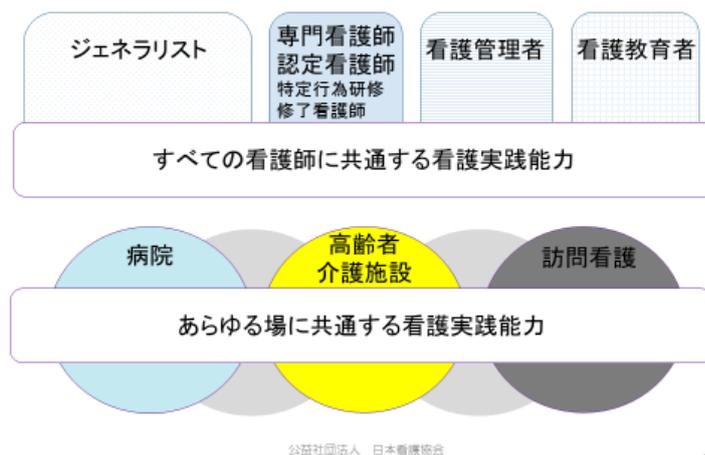


看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）の活用

1. 看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）開発の目的と期待される効果



2. 看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）の位置づけ

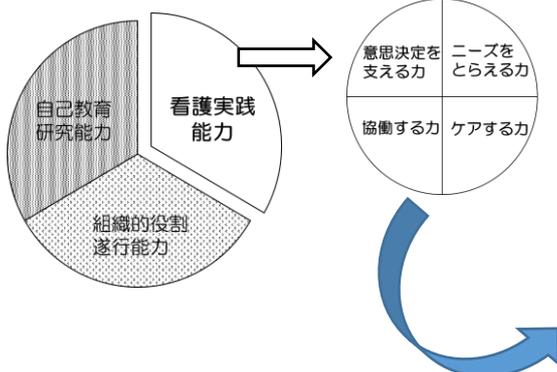


3. 実践能力の核となる4つの力について

*核となる実践能力とは、看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

平成14年度日本看護協会基盤整備研修
「ジェネラリストの標準クリニカルラダー」

「看護師のクリニカルラダー
(日本看護協会版)」



4. 「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」の段階設定

| レベル | レベル毎の定義 |
|-----|---|
| I | 基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する |
| II | 標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する |
| III | ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する |
| IV | 幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する |
| V | より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する |

5. 「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー／GLOCMiP）」の段階設定

| レベル | 到達目標 |
|-----|--|
| 新人 | 1.指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる |
| I | 1.健康生活支援援助のための知識・技術・態度を身につけ、安全確実に助産ケアができる 2.助産外来・院内助産について、その業務内容を理解できる 3.ハイリスク事例についての病態と対処が理解できる |
| II | 1.助産過程を踏まえ個別的なケアができる 2.支援を受けながら、助産外来においてケアが提供できる 3.先輩助産師とともに、院内助産におけるケアを担当できる 4.ローリスク／ハイリスクの判別および初期介入ができる |
| III | 1.入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる 2.助産外来において、個別性を考慮したケアを自律して提供できる 3.助産外来において、指導的な役割を実践できる 4.院内助産において、自律してケアを提供できる 5.ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる |
| IV | 1.創造的な助産実践ができる 2.助産外来において、指導的な役割を実践できる 3.院内助産において、指導的な役割を実践できる 4.ローリスク／ハイリスク事例において、スタッフに対して教育的なかかわりができる |